

2009年度の消化器科のスタッフは常勤医師1名。マンパワーの不足は内科医師、非常勤医師、外科医師の応援により補ってきた。消化器外来は週2回であり、肝臓外来を熊本大学医学部附属病院からの非常勤医師が週1回担当した。

検査実績 (件)

	2009	2008
上部消化管(処置を含む)	1,156	1,382
下部消化管(処置を含む)	432	409
ERCP(処置を含む)	10	20
超音波内視鏡	5	

治療実績 (件)

	2009	2008
胃ポリペクトミー	2	6
大腸ポリペクトミー	47	44
胃EMR(内視鏡的粘膜切除術)	1	1
大腸EMR(内視鏡的粘膜切除術)	4	1
食道静脈瘤治療(EVL, EIS, APC)	9	1
内視鏡的止血術	15	8
異物除去	3	5
食道狭窄拡張術(ステント、バルーン)	32	29
PEG造設	32	40
PEG交換	49	37

2008年度と比較してみると、検査実績においては、下部消化管、超音波内視鏡が増加した。また、治療実績においては、大腸ポリペクトミー、大腸EMR、食道静脈瘤治療、内視鏡的止血術、食道狭窄拡張術、PEG交換などが増加した。

主な消化器疾患入院症例数(主病名のみで重複なし) (例)

逆流性食道炎	3
マロリー・ワイス症候群	1
食道・胃静脈瘤	5
食道癌	1
横隔膜ヘルニア	1
AGML	1
胃ポリープ	3
胃癌	2
(出血性)胃十二指腸潰瘍	17
出血性直腸潰瘍	1
アメーバ赤痢	1
大腸ポリープ	44
大腸血管異形成	2
大腸LST	4
大腸癌(腺腫内癌を含む)	13
大腸憩室出血	9
感染性腸炎	6
イレウス(サブイレウスを含む)	9
虚血性大腸炎	2
大腸憩室炎	1
肝障害	9
急性肝炎	7
自己免疫性肝炎	1
肝硬変	5
肝性脳症	16
肝細胞癌	5
胆管細胞癌	3
胆嚢・胆管炎	4
総胆管結石	5
胆管癌	3
急性膵炎	12
膵臓癌	10
特発性細菌性腹膜炎	3
悪性リンパ腫	2
その他	88

その他症例が最も多いが、この中には誤嚥性肺炎でPEG造設した症例、消化管出血以外の原因で貧血を認める症例などが含まれた。次に大腸ポリープ、上部消化管出血、肝性脳症、大腸癌、急性膵炎、膵臓癌などの症例が多かったが、消化器全般多岐にわたっていた。大腸癌症例は腺腫内癌4例を含み、内視鏡的切除し得た大腸腫瘍の担癌率は7.8%であった。また、横隔膜ヘルニア、アメーバ赤痢などの稀な疾患を認めた。消化器癌化学療法症例が増加する傾向を認めた。